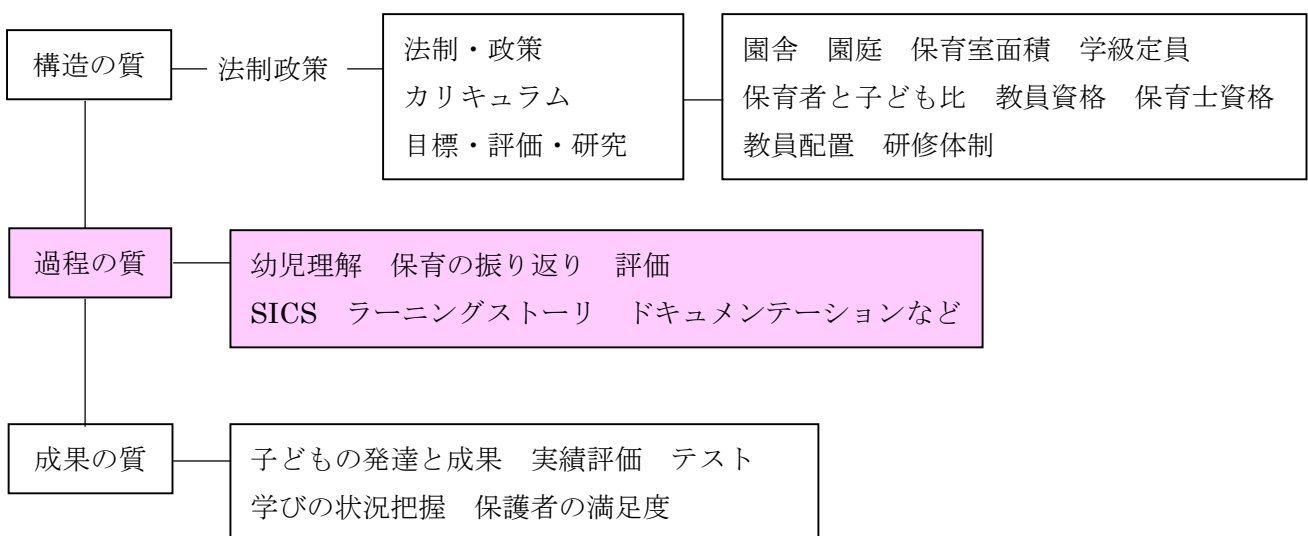




「保育の質をめぐって」

子ども理解から始まる環境の構成の意味をあらためて考える

1. 保育の質が高いとはどういうことか。



○子どもの幸せ感が高いと保育の質が良いと言っても良い。

○保育者自身が保育の質とは何なのかを明らかにすることが大切。→日々の実践の中で必要かどうか考える。

〈質の高い幼児教育の効果 ジェームズ・ヘックマン〉

14歳での基本的な到達 49 : 15 高校卒業 65 : 45 40歳で年収2万ドル以上 60 : 40

40歳までの逮捕歴 36 : 55

〈ECEC〉

まず、保育の場で日々子どもたちと向き合っている保育者自身が保育実践を通して保育の質とは何か日々の実践の中で保育の質が高いか低いか疑問に思うだけでいい。

2. 幼児教育は環境による教育(幼稚園教育の基本)

遅延教育要領/幼稚園教育の基本

- ・ 幼児期の特性を踏まえ、環境を通しておこなうものであることを基本とする。
- ・ 幼児は一人一人の違いが大きい。

非認知能力：教科書を読んで学べるものではなく、体験を通して学ぶもの。

主体的、自発的学びをするのが幼稚園、こども園、保育園。

環境の捉え方 物的環境・人的環境・空間的環境

基本的な環境の考え方—環境設定ではなく環境構成

=モノ・ヒト・コトとの豊かな出会いをデザインカリキュラムを創るということ(見通しがある)

○保育者は子どもと共に環境を構成していくデザイナー
どのように創ってどのように子どもに受け渡すのか。

昔から日本の教育の在り方「薫陶」
子どもを取り巻く雰囲気醸し出すもの

3.環境の意図性

狙いを立てる保育者なりの視点

〈PEMQの4つの視点〉

- ① 子どもが活動したくなる環境?
- ② 子どもが利用しやすい環境?
- ③ 子どもの活動の過程を支える環境?
- ④ 子どもの活動の足跡性がある環境?

充足感 達成感 満足感を生み出す。

[環境を考察する視点]

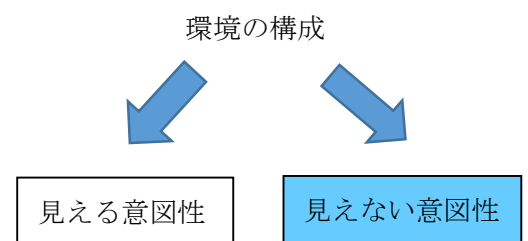
環境の構成とは保育者が一方的に要した環境で「遊ばせる」ということではない。

[子どもとともに創る環境の構成という視点]

立派な環境を用意して満足するのではなく、子どもの実態を把握しながら子どもにとって魅力的な環境とは?を考えて環境を変えていく。

○保育の質を高める環境の構成の意図性は「子ども理解」から始まる。

○子どもの理解の第一の基本は「子どもをどう見るか」



○子どもたちにドラマが生まれる環境の構成 → 高い保育の質

○環境の構成は生き物。日々、保育の振り返りの中で新しい課題が生まれ、保育者の新たなかかわりが求められるもの。ずっと変わらないものではない。 → 保育の質の担保

○とりわけ2つの視点で、**人的環境の在り方**を教職員間で見直していけているのか。

〈環境の構成は保護者や地域に向かっての情報発信〉